

## 雲仙岳の火山活動解説資料(平成30年8月)

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんが、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。  
噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況(図1、図2 - )

白色の噴気が最高で噴気孔上100m(7月:100m)まで上がりました。

- ・地震や微動の発生状況(図2 - 、図3)

火山性地震の月回数は29回(7月:22回)と少ない状態で経過しました。このうち震源が求まった火山性地震は25回で、震源は主に普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmに分布しました。

2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ約1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性微動は2006年11月以降、観測されていません。

- ・地殻変動の状況(図4、図5)

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図1 雲仙岳 平成新山の状況(8月6日、野岳監視カメラによる)

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>)や気象庁ホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成30年9月分)は平成30年10月9日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所(長崎県経由)、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平29情使、第798号)。

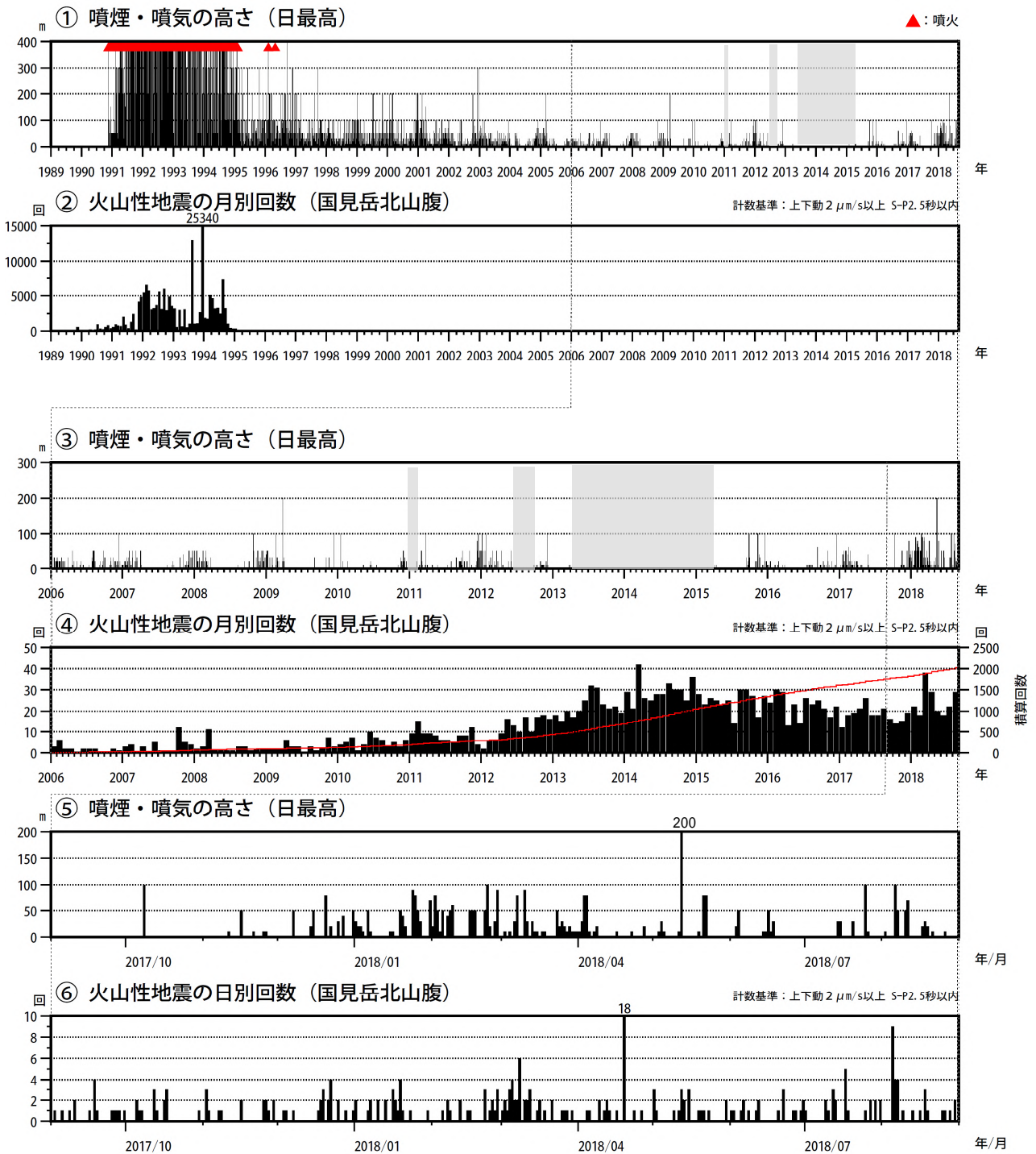


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2018年8月）

< 8月の状況 >

- ・白色の噴気が最高で噴気孔上100m（7月：100m）まで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は29回（7月：22回）と少ない状態で経過しました。
- ・長期的には、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ約1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動5  $\mu\text{m/s}$ 以上）で計数しています。

灰色部分は監視カメラ障害のため欠測を示しています。

の赤線は地震回数の積算を示しています。

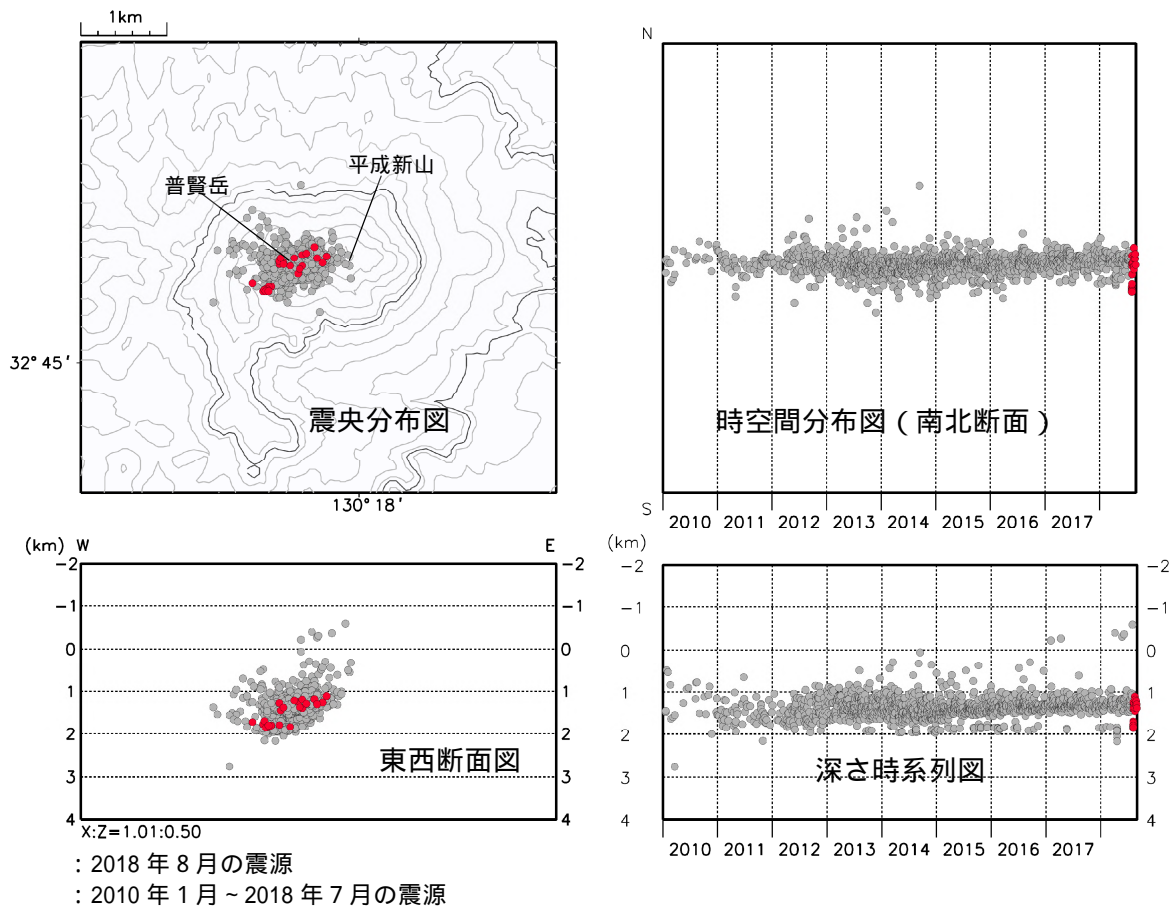
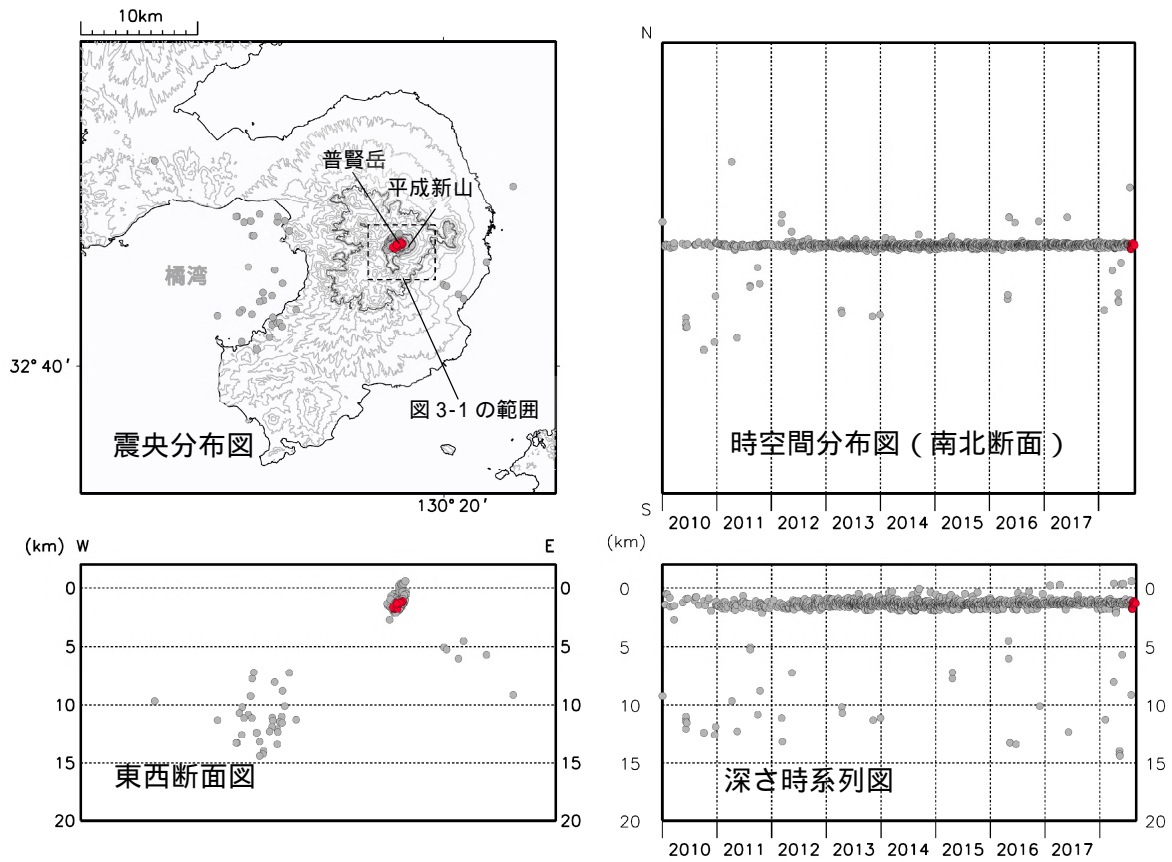


図3-1 雲仙岳 震源分布図(普賢岳・平成新山付近の地震)(2010年1月~2018年8月)

< 8月の状況 >

震源は、主に普賢岳から平成新山直下の深さ1~2kmに分布しました。



: 2018年8月の震源  
 : 2010年1月～2018年7月の震源

図3-2 雲仙岳 震源分布図(広域)(2010年1月～2018年8月)

< 8月の状況 >

震源は、主に普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmに分布しました。



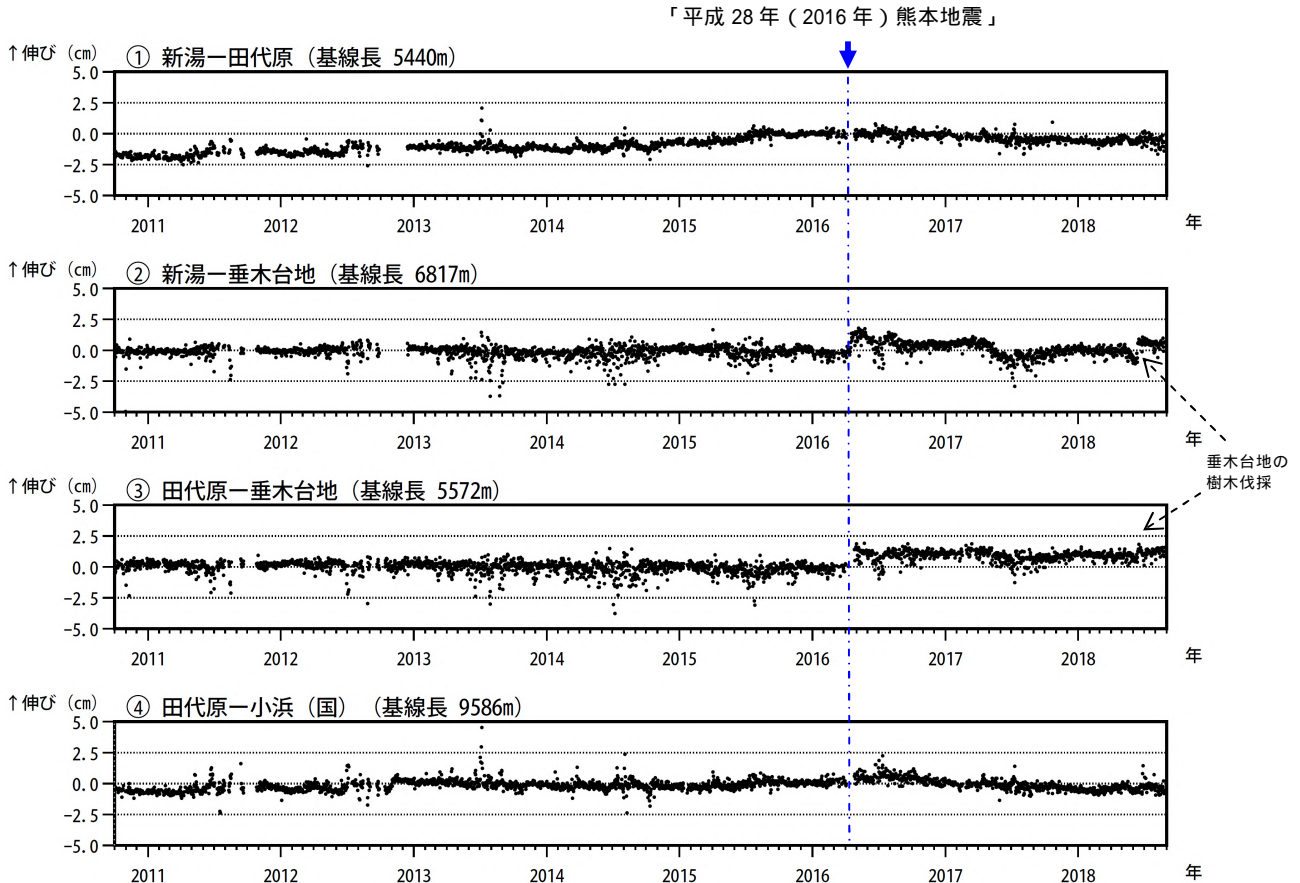


図4 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月~2018年8月)

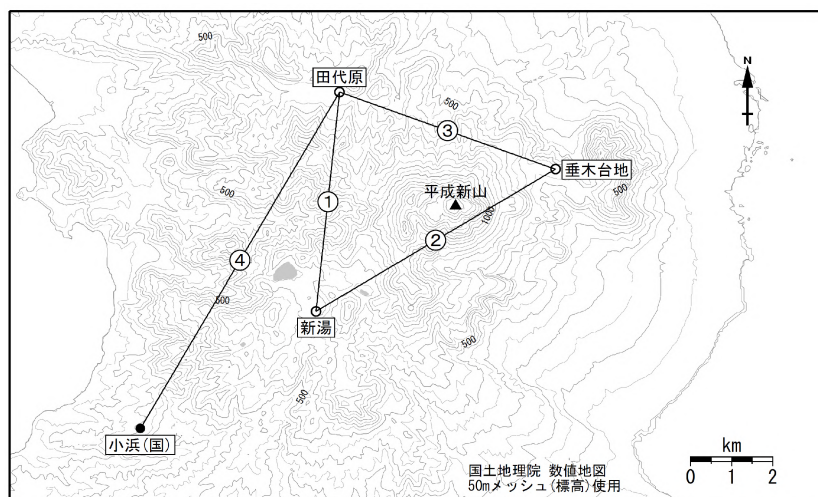
GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図5の ~ に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

(国)：国土地理院

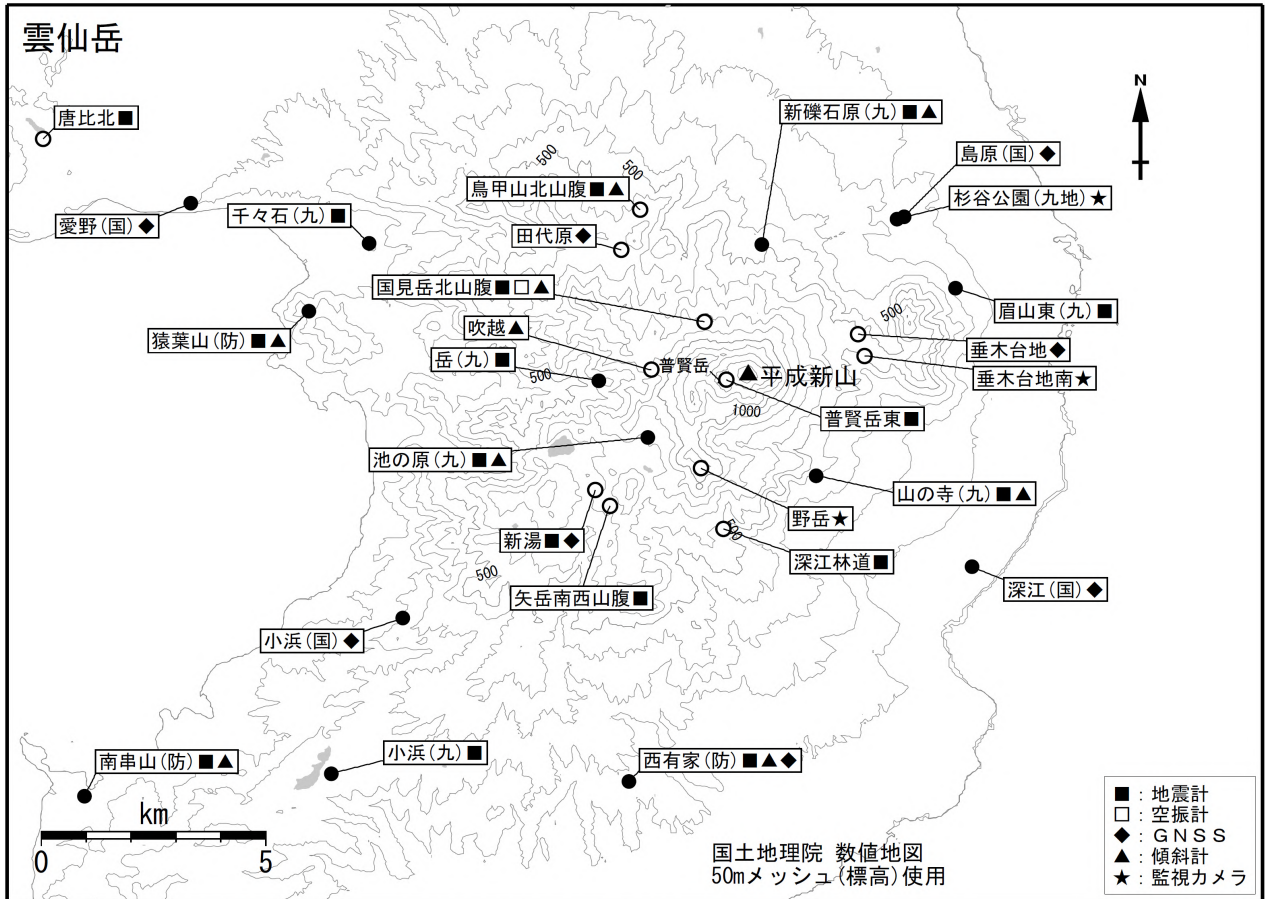


小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国)：国土地理院

図5 雲仙岳 GNSS連続観測点と基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は大分県の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(九): 九州大学、(防): 防災科学技術研究所、(九地): 九州地方整備局

図6 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(九地): 九州地方整備局、(九): 九州大学、(防): 防災科学技術研究所